

近畿病院図書室協議会 設立15年を迎えて

近畿病院図書室協議会

会長 梅垣健三

(星ヶ丘厚生年金病院長)

近畿病院図書室協議会が設立され15年を迎え、御同慶の至りであります。私、当協議会会長をお受けさせていただいて5年を経過致しました。医療情報の発展は広範囲に示され、それに伴って、司書の業務も時代とともに質・量増加し、責務が重くなりつつある一方で、飽くまでも地道な仕事であり、気苦労の多い業務であることを切実に感じとってきております。

情報洪水となってきた現在、日々送りこまれる情報は医学雑誌はもとより、各病院関係よりの情報、薬業関係よりの情報、報道関係よりの情報等実に膨大な量に達しております。医療に携わる全職種の人々にとって、これらの情報を頭に入れることの必要なことは百も承知しております。受け入れる能力に限界のある以上、質的にまとめて吸収していかねばなりません。日々、多忙に医療に携わっている以上、これを各施設の図書室の司書にお願いし、提供を受けることにならざるを得ません。この提供こそ、病院図書室の業務の最も基本でありましょう。

しかし、各施設の図書室においても情報の受け入れ量には自ずと制限の加えられるのも至極もったもなことであり、勢い他施設との相互協力、支援を仰ぐことが生じて参ります。これを如何に効率よく、迅速に行うかが現在期待されている組織づくりになるのではないのでしょうか。

近畿病院図書室協議会形式をとっている会は当協議会のみではありますが、参加施設は近畿地区に限らず、中部、中国地区等からも参加されており、その存在意義が認められてきていることは、会員各位の御協力の賜物と敬服している所であります。

絶えず、研修会を通じて会員相互の啓蒙、精進を重ね、時代に遅れない様、自分に与えられた任務への認識を新たにしていることは、並々ならぬ努力であり、またそうすることが求められていることでもあると考えます。

昨年、近畿地区医学図書館協議会より、当協議会と密接な連絡をとりあって、お互いの協力、支援を強力なものにしようではないかとのお願いをいただき、目下慎重に検討を加えている所であります。

また、昨年暮れには15周年を記念しての座談会が催され、図書室の基準或いはネットワークということについて忌憚のない意見が交換されました。この様に各位はそれなりに何とか図書室業務を通して、医療に貢献しようとの強い熱意に燃えておられます。会としての組織はこれを実現する方向にもっていかねばならないと思うのであります。今後、引き続き各方面の力強い御支援、御協力をお願いし、会員各位のたゆまぬ努力を願って、お祝いの言葉と致します。